スタート事故の波乱の中…
下出卓矢が地元ＧＩ初制覇！

三国　11/28～12/3

ＧＩ　北陸艇王決戦

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	△	②	下出　卓矢	38	福井	1513251	2	07
2	◎	①	上野真之介	36	佐賀	3223311	1	03
3		⑥	佐藤　　翼	36	埼玉	1233442	6	15
4		⑤	辻　　栄蔵	49	広島	1421252	5	15
5	○	③	毒島　　誠	40	群馬	4215241	3	08
F	×	④	金子　拓矢	41	群馬	6111322	4	+01
2連単	②-①		1460円		5番人気		差し	
3連単	②-①-⑥		6830円		20番人気			

シリーズ展開

メンバー唯一のオール3連対、シリーズリーダーで準優勝戦も逃げて勝った上野真之介が優勝戦1号艇を獲得。0台のスタートを連発し、攻めのレースが目立った地元の下出卓矢が2号艇、抜群のピット離れを武器に準優勝戦6号艇から2コースに入って差して勝った毒島誠が3号艇。エースモーターの金子拓矢、辻栄蔵と佐藤翼が優出した。

雨の降る中で行われた優勝戦は枠なり3対3。全体的に早いスタートの中、カドから一気にまくりにいった金子は、僅かにスリットオーバー。コンマ07のスタートから冷静に差した下出が2マーク先マイでそのまま先頭ゴール。地元GI初優出、初優勝を飾った。2着は上野と佐藤の争いで2周1マークで突き放した上野に軍配。佐藤が3着だった。

現場記者の目

今節は日替わりで気象条件も変わる難しいコンディションのなか、下出は連日調整の手を緩めることなく、優勝戦でもピストンリング1本の交換とペラ調整を行った。「出足やターンのグリップ感は準優以上で良かった。自分の調整を信じてやり続けてよかった」と満足気。来年3月の若松ＳＧクラシック出場権を手にし「ＳＧを走りたいと思っていたし、伸びの精度は誰にも負けないように自分の仕事をこれからもしていきたい」と自然体の中に秘めた熱い想いを語った。時折柔らかい笑顔を見せ優勝を噛み締める姿は、ＳＧでも大仕事をしてくれるのではと思わせてくれる顔つき。進化を続ける伸びを武器に、大舞台での走りも期待したい。

（実況アナ 高橋敬亮）

ＳＧ初戴冠の河合佑樹の独壇場！
勢いそのままにＶゴール！

鳴門　12/3～8

ＧＩ　大渦大賞

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	河合　佑樹	37	静岡	3112131	1	04
2	○	②	上平　真二	51	広島	5125211	2	15
3	△	③	片岡　雅裕	38	香川	6333211	4	03
4		④	中村　晃朋	33	香川	142122	5	08
5		⑤	藤原　碧生	24	岡山	221332	6	06
6	×	⑥	田村　隆信	46	徳島	5631252	3	05
2連単	①-②		400円		1番人気		抜き	
3連単	①-②-③		1170円		1番人気			

シリーズ展開

ダブルドリーム第1戦は池田浩二、第2戦を峰竜太がともにインから押し切り勝ちで人気に応えた。初日ドリーム勝ちの池田が3連勝で序盤をリードしたが、3日目でやや失速してしまい、主役に踊り出たのはエース21号機とタッグを組む河合佑樹だった。準優は10Rで池田、11Rは山田祐也と、インが優出を逃す中、河合は12Rを逃げて波乱の流れを断ち切った。最終日はホーム追い風が強い中での短縮戦となる。6号艇には前付け宣言を出している地元の田村隆信がいて絶好枠の河合は楽な戦いではない。1マークは2コースの上平真二の差しが入り、内を差し込んできた中村晃朋もバックで内を伸びてくる。それでも、2マークで2艇の間をシャープに割った河合が首位を奪いVゴールへ飛び込んだ。

現場記者の目

終わってみれば乗っている男の独壇場シリーズだった。直前節に下関チャレンジカップでSG初タイトルを奪取して乗り込んできた河合佑樹が手にしたのはエース21号機。偶然にも下関で乗ったのも21号機。その時点ですでに大きな流れは引き寄せていたのだろう。予選トップ通過を決めて、準優はただ一人の逃げ切り勝ち。ファイナル戦はビシッと逃走ではなかったが、パワフルな機力と鋭い立ち回りで逆転優勝を決めた。今節は冬場の季節風が吹き荒れた。そんな安定板装着、短縮レースでも「安定板がついている方がいい感じ」と河合は常にパワフルな機力をキープした。そして「ＳＧを取ったことでメンタル面が強くなりました」の言葉通り、冷静な2マーク勝負のV奪取となった。

（報知・田代）

“走る選手会代表”瓜生正義 当地ＧＩ４度目のタイトル奪取！

福岡　12/8〜13

ＧＩ　福岡チャンピオンカップ

シリーズ展開

ＳＧグランプリ直前のＧＩ戦ということもあってグランプリ組がどのような走りを見せてくれるのかに注目が集まったが、最終的に予選１位通過は瓜生正義、同２位は毒島誠と大一番を控える２人がシリーズをけん引した。優勝戦も舟券は好枠を固めた瓜生、毒島の折り返しで断然の支持を集めたが、毒島の２コース差しは舟が流れて不発に。インから隙のないターンを繰り出した瓜生に軍配が上がった。

16年ＳＧダービー以来の福岡制覇となった瓜生は「最近の博多は取り切れないレースが続いていたので優勝できたのはすごくうれしい。感無量って感じですね」とファンを前に満面の笑み。最高の結果で年末の大一番に弾みをつけた。

現場記者の目

ＳＧ３冠に加えて、ＧＩタイトルは今回の優勝で４つ目。過去を振り返っても当地実績で瓜生の右に並ぶ選手はいない。ただ、そんな瓜生も近年は当地戦に限らず準優、優出までというシリーズが目立ち、以前ほどの決め手に欠くレースが目立った。一番の要因を挙げるとすれば選手会代表としての重責を担いながらレースを走ることの難しさに他ならない。

「いち選手と、選手会の役職となるとどうしてもやらないといけないことが多くなるので、切り替えが大事。その切り替えが少しずつできるようになってきたかな」と振り返ったように24年はようやくスタイルが確立できた１年だった。“走る選手会代表”としての挑戦はこれからも続く。

（スポニチ・鳥飼）

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	瓜生　正義	48	福岡	3223121	1	13
2	×	④	大上　卓人	34	広島	2132242	4	17
3	△	③	渡辺　浩司	41	福岡	3121251	3	13
4		⑤	渡邉　和将	34	岡山	3123232	5	11
5	○	②	毒島　　誠	40	群馬	2231321	2	14
6		⑥	西山　貴浩	37	福岡	4144212	6	21

2連単　①-④　1150円　4番人気　逃げ

3連単　①-④-③　4360円　15番人気

マクール杯 〜男女W優勝戦・モーヴィ戸田〜

in 戸田

1月26日㊐〜31日㊎

柴田光

田口節子

石丸海渡

實森美祐

●出場予定選手　（24.5.1〜10.31）

印	選手名	級	勝率
	渡辺千草	B1	5.09
△	寺田千恵	A1	7.08
×	柴田　光	A1	6.72
	福田雅一	A2	5.50
	藤田美代	B1	4.71
	桑原　啓	B1	4.28
	森下　勇	B1	3.63
	本橋克洋	A2	5.64
	安達美帆	B1	4.39
×	中谷朋子	A1	6.49
	松本浩貴	B1	4.38
	原田秀弥	B1	5.27
	小野　桜	A2	5.87
◎	田口節子	A1	7.35
○	益田啓司	A1	6.61
	樋口喜彦	B1	4.19
	上野秀和	B1	4.39
	前川守嗣	B1	5.30
	鈴木裕隆	A2	5.80
穴	今井裕梨	A2	5.99
△	関根彰人	A2	5.86
	原加央理	B1	5.35

印	選手名	級	勝率
△	中田元泰	A1	6.84
×	後藤翔之	A2	5.75
	藤堂里香	A2	5.77
	中澤宏奈	A2	5.84
	井手良太	B1	4.79
△	大豆生田蒼	A2	5.98
◎	石丸海渡	A1	6.67
	宮内直哉	B1	3.95
▲	中田夕貴	A2	5.95
	孫崎百世	B1	4.75
○	實森美祐	A1	6.63
	島倉　都	B1	3.78
	田中博子	B2	0.00
注	宮田龍馬	A2	6.02
注	平川香織	B1	5.14
	宮崎安奈	B1	3.66
穴	大久保佑香	B1	4.03
	野田昇吾	B1	2.31
	滝沢織寧	B1	2.60
	西田和加	B2	1.11
	金子龍斗	B1	3.26

今開催注目ポイント！

○女子は地力が抜けている田口節子が優勝候補筆頭。同支部の寺田千恵、近況安定感抜群の實森美祐も優出してくるだろう。

○埼玉女子が多数登場。大豆生田蒼、中田夕貴を中心に、本誌の表紙を飾った平川香織、宮崎安奈、大久保佑香も地元で気を吐く活躍を期待したいところ。

○男子は石丸海渡が力の違いを見せる。前期の平均スタートは0.11と非常に早く、いかにも戸田向き。センターから強烈な一撃を放つ。前期絶好調だった柴田光は、夏場にF2になってしまった。しかしその後も抜群の調整力で勝率は落とさなかった。今回も上位に食い込んできそう。

戸田で開催されるマクール杯は男女W優勝戦として開催される。この時期はちょうど女子戦がないため、地元勢を中心に女子に好メンバーが集まった。男子は石丸海渡を筆頭に骨太な選手たちで優勝を争う。